

成願寺

季報
105

平成 27 年 6 月 18 日
(2015 年)

目次

「今こそ伝えたい命の大切さ」小松周翁……………	1
内藤電誠工業株式会社坐禪研修会の報告……………	9
お檀家の中の匠「紋章上繪師・波戸場承龍氏」……………	10
春の観音詣りの報告……………	11
山内短信……………	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十六年納めの観音・年末の会説教

今こそ伝えたい命の大切さ

静岡県養勝寺住職 小松周翁



静岡県養勝寺住職
小松周翁老師

ご紹介いただきましたように、十八年ぶりに納めの観音様のお話に参りました。先ほど、説教集であります「観音様の功德とともに」を拝読しながら自分の頁を見返しますと、当時は四十三歳。眼鏡のないう姿の写真が載っていましたが、五十をすぎたころ



成願寺「観音奉賛会」へのお誘い

開創より観音様と縁の深い当山には、西国三十三カ所、坂東三十三カ所、秩父三十四カ所の、合わせて百の観音霊場のご本尊様と同じお姿の観音様が安置されています。観音さまのご縁日である毎月十八日には、午後二時より百観音堂（圓通閣）にてご祈禱が行なわれます。一月の初観音、十二月の納めの観音のご縁日では、お説教と懇親会。

毎年四月二十九日（昭和の日）には、春の観音詣りとして東京近郊の観音霊場を巡拝。次回からは東京三十三観音霊場の巡拝が始まります。また、十一月中旬には秋の観音詣りとして、一泊で少し遠出をし、各地の観音さまにお詣りしています。どなたでも（檀家以外の方も含）、いつからでもご参加いただけます。問い合わせは寺務所まで。

から乱視や老眼がでて参りまして、本日はこのように眼鏡をかけた姿でお話をさせていただきます。

私のお寺は静岡県にございます。島田市の富士山静岡空港のすぐ近く。現在は養勝寺と久翁寺というお寺の兼務住職をしております。月に一度「寺スクール」ということをしております。これは、地域の子どもたちを朝九時から夕方四時までお預かりして、午前中は勉強をしたり仏様のお話をし、お昼には本堂の前で流し素麺やバーベキューをする。午後からは境内で遊んだり、散歩に出かけたりして過ごしています。

そんなことをしております時に、子どもたちに一番伝えたいことは何かと考えました。それはやはりご先祖様、お父さん、お母さんのおかげで、自分の命があるということ。その尊い命はたった一つしかないかけがえのないものなんだということをしっかり伝えていきたいと思いました。命を大切に करना なんて当たり前のことだと思われるかもしれませんが、私には強くそう思う出来事がございました。

私は元々は北海道の出身ですが、静岡に参りました頃、娘がまだ小さかったものですから、近くの保育園にお世話になることになりました。移り住んで

間もない頃ですから、私は毎日が日曜日状態。朝、娘を送りますと、保育園の子どもたちと遊びまして、また夕方迎えに参りますと、また小一時間ほど子どもたちと遊んだ。私が園に参りますと、子どもたちが「こまっちゃんが来た！」と集まってくれます。泥遊びをしていた手で私のお腹をさわりながら「こまっちゃんのお腹、何が入ってるの」なんて言われたりしましてね、そうしてみんなが落ち着いた頃に、一人の女の子がやってきて、そっと手を繋ぐんですね。繋ぎながら「こまっちゃんだよ」と確認するんです。と言いますのは少し目が不自由な女の子でした。それが日課のように、手を繋ぎながらいろいろな話を聞かせてくれました。それがその子が夏に海に遊びにいった時、溺れた妹を助けて亡くなってしまった。そういう心の優しい子でした。ご葬儀には、お友達が全員来ておりましたので、私は「命は一つしかないんだ」ということをお話させていただきました。

何年か経った頃のことです。「寺スクール」でお昼をみんなでいただいた後に散歩に出かけました。そうしましたら一人の女の子がさっと手を繋いできたんです。たいてい女の子が手を繋いでくれるのは

一年生ぐらいからです。でもその子は五年生でした。そのくらいですと普通は「手を繋ごうか」なんて言いましても「やだよ」と言われる。それがふっと手を繋いできた。その時に私は、「離せ」と言ったんです。「和尚さん恥ずかしいから離して」と言っちゃったんです。「なんで！　なんで！」と言いながら離してくれましたが、その子は夏休みが始まったその日に、道の反対側にある自動販売機にジュースを買いに行こうと道を渡るとき、スピードを出していたバイクにはねられて亡くなった。その子は檀家のお子さんでした。お葬儀をするのが辛くて、なんであんなことを言っちゃって、手を繋いで歩いてやらなかったかなとも悔やまれます。ですから、いまは子どもたちが手を繋ごうと来てくれた時は、その子が飽きて離すまですっと繋いで歩くようにしております。

死んでも生き返る？

十年ぐらい前に新聞やテレビで話題になりましたが、「人は死んだらどうなるの」という問いかけに対して小中高生の二割が「生き返る」と答えています。この調査をした先生のお話によりますと、「生き返る」

ということと、死んでもいつか人間として「生まれ変わりたい」ということが混同しているということがあるそうですが、でも大多数はそうではないんですね。当時のテレビ番組で、学校で命の尊さについて学ばせていました。また地域の人たちが子どもたちに話を聞いて聞かせてもいました。それでも子どもたちはピンとこない。どうしてだろうかとよくよく考えて気がつきましたが、順番で言いますと、近い家族ではおじいちゃん、おばあちゃんが先に亡くなります。でも子どもたち、亡くなった様子を見ていないんですね。

私どものところでは、よほどの事情がない限りは、病院から一度家へ連れて帰って、ほとんどがお通夜は自宅。午前中に棺を火葬をして、それからお寺か葬儀場でお葬式ということなんです。葬儀場に伺いますとね、お父さん、お母さんは大変なものですから、子どもにおやつを渡して、いまは葬儀場なんかには子どもを遊ばせておく部屋が用意されているんです。ですから子どもたちはその部屋にいて、大人たちがなにをやっているかわからないんです。見ていないんです。大人たちがどんなことを話しているか聞いていないんです。

「ご法事でご自宅に呼ばれて参りましたも同じです。今日は、子どもさんは」と聞きますと、「子どもたちがいるとうるさいもんで、向こうでテレビを見させています」なんておっしゃる。「だめだめ、みんなこっちへ来て、お経の本を持ってがんばれるところまでがんばろう」と言って私は坐らせています。そうしますと子どもたち、ある程度がんばれるんです。

実は昨日もお葬式がございました。子どもさんがお母さんの膝の上に坐っていましたので「隣の座布団が空いてるよ。少しがんばってみよう」と言って坐らせましたら、最後まできちんと坐っていられました。それが、たとえば五分であれ十分であれ「それしかできないの」と言ってしまったらだめ。「がんばったね」と認めれば、また一周忌の時には五分だったのが十分になり十五分になるのです。昨日のお葬式の時には子どもたちが真ん中に出てきまして、涙をぬぐいながら一生懸命お別れのあいさつをされていました。こういったことは、子どもたちにとってとても大切な経験になっただろうと思うのです。

先ほど二割の子どもたちが、死んでも「生き返る」と答えたと申しましたが、長崎県の教育委員会で同じようなアンケートをとったそうです。「赤ちゃんが

産まれた時の喜びを感じたことは」「はい七三・五%」「身近な人が死んだ時の悲しみを感じたことは」「はい八一・三%」「死んだ人が生き返ると思うか」「はい十五・四%」。この十五・四%の理由はというと「生き返る話を聞いた」。これはさきほど申しました、また人間としていつか生まれ変わりたいということです。「テレビや映画で観た」そうですよね。こっちの番組で死んだ人がこっちの番組では生きているんですもんね。そして、「ゲームではリセットすれば生き返るから」という理由があるんです。

「動物が産まれたところを見たことがあるか」「はい五〇・三%」「死んだ動物が生き返ると思うか」「はい一二・七%」「人を傷つけたり殺した時、どんな罰を受けるか、法律や制度を知っているか」「はい五二・七%」。

こうしたアンケートの結果を見ておきますと、生き返ると思つて人を刺してしまう、傷つけてしまう。こういうところへ繋がっているように思うのです。そして罰を受けるといふことを、約半分の子どもたちが知らないで過ごしている。この数字を多いと見ますか、少ないと見ますか。百人が目の前にいて、そのうち何人が生き返ると思つているかと考えますと、

これはとても怖いことだと思うのです。三つ子の魂百までもでございます。高校生や大学生が同級生を殺めてしまう時代です。死んでも生き返るなんて思っている大人になつては困るのです。

私たちには、命はたった一つしかないんだ、生き返るなんてことはないんだという、この当たり前で大事なことを孫や近くの子どもたちに伝えていかなければなりません。

間違えても良いからまずは経験させてみる

ある先生が児童の父母に対して「子どもたちに何を望み、何を教えていきたいか」と質問をしたそうです。そうしましたら、まず出てきたのが、「私的なことと公の事との区別がつかないことをどうにかしたい」。具体的に言いますと、自分の家の車に乗ると、隣のおじさんの車に乗せてもらうことの区別がつかない。あるとき、螢を見に地域の子どもたちを連れていくのに「和尚さん車を出してもらえないかね」というお話がございました。近くの子どもたちが五人ほどやって来まして車に乗り込みましたら、車内は大騒ぎです。みんな自分のしゃべりたいことをわーわー言つて、会話になっていないんです。

行く時も帰る時も同じでした。「こういうことか」と思つておりましたが、あまりうるさいものですから「静かにしろ」と大声でどなりました。静かになるんですね。「そうか、乗せてもらっているから静かにした方が良いのか」という気持ちとはたぶんあるのです。ですが、一分経たないうちに「はあ、はあ」という息づかいです。「あ、これはいかん」と思つて、教えなければと思いましたがのが坐禪の呼吸の仕方。腹式呼吸です。ゆっくり吸つてゆっくり吐いていく。「寺スクール」の時に子どもたちがやってきますと、まず坐らせて息を整えさせる。そうすると気持ちが落ち着くのです。身体も落ち着いてくるのです。私どものお寺では年に二回、子どもたちのお泊まり会がございます。その時にも朝起きたらまず坐禅です。それとともに、箸の持ち方、えんぴつの持ち方、そういうことも教えないといけないなと思つて実践しております。

ある日、お経に伺つたお宅で「今日は嫁がお茶を入れて差し上げます」とそちらのお母さんがおっしゃった。「そりゃあ、少しでも若い人だと嬉しいね」なんて冗談を言つておりましたら、お茶を持ってきたお嫁さん、立ったままお盆を私の前に差し出して、

自分で取れということですね。これはね、持ってきてくれたのが小学生や中学生ぐらいなら、「ちゃんと膝について和尚さんの前に置いてくれたら嬉しいよ」なんて言えるわけですが、お嫁さんには言いにくい。ちよつと話が逸れますが、お茶を出していただきますと茶托がついてきますよね。蓋がついてくるときもある。では、どちらか一方だとしたらどっちがついているのが丁寧ですか。そうです、どちらかなら茶托ですよ。そこに蓋があればさらに丁寧ということ。そういうことは、子どもの頃から近くの大人が教えているかどうかですね。

お寺で子どもたちに「その衝立ての向こうにお茶の支度がしてあるよ。みんなの分と和尚さんの分と淹れてくれるかい」と言ってやらせてみますと、茶托が蓋になってきたりします。でも、それは「和尚さん、こうしてくれた方が嬉しいがな」とにやっとしながら教えたなら、もう間違えないわけです。小さいうちから、間違えて良いからやらせてみる。間違えていたら教えてあげたら良いわけです。

「簡単でいい」と「簡単が良い」

子どもたちにどういふ大人になってほしいか。良

い大学に行つて良い会社に入つてほしい。それでどうなるのと言え、良いお給料をもらつて裕福な暮らしをさせたいとおっしゃる。その結果かどうかわかりませんが、親のお骨もいらぬ。親のお葬式もやらなくていいという人が出てきています。

みなさんには言わないでいただきたいのですが、子どもたちや孫たちに迷惑をかけたくないという気持ちから「私の時はお葬式はいいよ。もしやつてくれるなら簡単でいいよ」とおっしゃる方が増えました。そうしますとね、「うちの親父は簡単がいい、と言つていたからこのまま火葬場に行つて…」となつてしまふ。

ある九十歳ぐらいのおばあちゃん、ずっと実家のお墓を守つてきた。その実家にはその長男がちゃんといふんですよ。でもどうにも見られないと「和尚さん相談にのつてくれんかね」と言つてきた。それでそのお墓に、実家の長男、その息子、相談に来たおばあちゃんとおばあちゃんのところのお嫁さんと参りまして中を開けてみました。するとお骨が二つ入っていました。「このお骨二つはどなたのですか」と聞きました。実家の長男が「親父とお袋です」「このままお守りしたらどうですか」とここまで出かか

りましたけど「お墓はもういらぬ」と言っんです。その隣で、三十代ぐらいのその息子が様子を聞いているんです。同じことが繰り返されますね。だって親が言っていたんです「いらぬ」って。

みなさんは、「お葬式は派手にやって」とおっしゃってくださいますね。私どもがお経に参りますと「和尚さん、ひとつ簡単に、短くてよいです」なんて言われることが増えました。「簡単に」と言ってるそばで若い息子や娘が聞いていますよ。それでは孫世代が、近い人を亡くしたときの悲しみや、感謝や、そういったことを「簡単に」で良いと思ってしまう。人が一人懸命に生きたその命の尊さが伝わらないのです。

それぞれの家庭の事情もあると思いますので「質素に」というならわかるんです。でも「簡単に」と言いますと、迷惑をかけたくないという思いやりの気持ちで言ったその言葉が、「簡単に希望だった」と思われて、じゃあやらないのが一番簡単だと、そうになってしまうのです。

子どもたちに伝えていくことの大切さ

次の文章は小学校六年生が書いたものです。その日、おじいちゃんが亡くなって、顔を洗って着替え

たら、おじいちゃんにご挨拶に行こうと親が起こしに来たそうです。

「ぼくが初めて人の死とか命について考えたのは四年生の時だった。学校の命の学習で、娘さんをガンで亡くしたという方の話を聞いた。娘さんに会えないことが寂しいと言っていていらつしやった。ぼくはその学習以来、お父さんやお母さん、みんなに会えなくなるのはいやだ。死ぬのは怖い。ぼくは死にたくない。死んだらどうなるんだろうと一人になるたびに考えて、しばらくは怖くてたまらなかった」

その子はおじいさんの死を通して、また、命はたった一つしかないかけがえのないものなんだということがわかって、さらに、

「起きる、食べる、勉強する、遊ぶ、寝る、見る、聞く、感じるなど、当たり前のように普通にしていることが、なんだかとても大事です。すごい事のように思えてきた。生きているということはそれだけです。いいんだ。命があるからなんでもできるんだ」

こう書いています。

もう一つ小学生の書いたものをご紹介します。

「私の家族は六人家族です。お母さんはいつも私と妹に産まれてきてくれてありがとうと言います。私

はそのたびになんだろう、と思っていました。明くる日、お母さんのお母さんが死んでしまいました。私も辛かったけどお母さんはとても落ち込んで、体を壊してしまいました。それで私はかけがえのない命の大事さを初めて知りました。それからお母さんに産まれてきてくれてありがとうと言われると、私も産んでくれてありがとうと言うようになりました。それはかけがえのない命の意味を知ったからです」。

みなさん、いかがでしょうか。

よくお話に伺う機会をいただきますが、帰り際に、「和尚さん、おれたちにそんな話をするより若いものにしてくれ、言っても聞かないで」

なんて言われます。でもね、この作文を書いた二人の小学生にはちゃんと伝わっていますよね。それに、言葉で言わなくても伝えていくことができるのです。

道元禪師様の教えの中に、「薰習くんじゅう」という語がございます。これは、霧雨の中を歩いていると着ているものがしっとりと濡れる様子を言うんだそうです。同じように、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんの優しさ、地域の大人たちの思いやりの中に子どもたちを置いていただきますと優しい子ども

に育つ。

ある「寺スクール」の時に、午前中は本堂で宿題をやって、午後から遊びに出ました。子どもたちは元気がありますが、私は歳とともに体力がどんどん下がっています。ですから子どもが走ってわーっと言行ってしまうのをなんとか追いかけて行く訳ですが、くたびれるんですね。

その日は雨が降ってききましたので、本堂に入ってビデオを観させた。私は壁に寄りかかっていたんですが、いつの間にか寝ちゃったんです。そうしたら「和尚さん寝てるよ」という声が聞こえてくる。遠くに聞こえながら寝ているわけです。「疲れてるんだから起こすんでない」と年上の子が言っている。しばらくしましたら「ビデオ終わったよ」と声がかかって、私の後ろに回り込んで肩を揉んでくれた子がいました。「和尚さんも疲れるよね」って。「あなたはお家でやってるの」と聞きましたら「毎日おじいちゃんとおばあちゃんの肩を揉んであげるの」。こういう子に育って欲しいよね。きつとこの子の家は、おじいちゃんとおばあちゃんの心が優しくて、お父さん、お母さんが、おじいちゃん、おばあちゃんを敬って大切にしている。

こういう子がいるかと思うと、「寺スクール」に来てお昼をいただく時に、片膝を立てて食べる子がいる。これは、私どものところは農家が多いものからです、つい忙しくて、または身体がしんどいのかも知れませんが、親がそうして食べているんでしょう。でもね、子どもは見ているわけです。肘をつかないとか、茶碗を持っていたりとか、当たり前のことだったんですけどね。でも大人が当たり前だと思うことこそ、言葉で、また普段の生活の中で子どもたちに伝えていかなければならないと思うのです。合掌

内藤電誠工業株式会社 坐禅研修会の報告

去る四月二日（木）からの一泊で、今年で四回目となる内藤電誠工業株式会社の新入社員研修坐禅会が修行され、静岡県良泉寺住職の大塚達雄老師が指導を担当されました。後日、感想文をいただきましたので紹介します。

＊正座、合掌など、祖父や祖母の見よう見まねでしやり方を知らなかったで、今回正しい作法を学ぶ事ができました。とてもありがたいです。

また、今回の研修で一番に残ったのは、日常とい

うものは常にあるものではないということでした。無事に一日を終えることができた。また明日もがんばって生きよう、といった心構えをして生きないともったいないと感じました。

これから先、社会人生が始まっていくわけですが、両親や祖父祖母にあと何度顔を見せることができるでしょうか。あと何度両親や祖父父母の作った料理を頂けるでしょうか。そういう事を考えると、今度会った時に、笑って、頑張って元気に生きているよと言えるように、頑張っていきたいと思います。

このようなことに気がつく事ができたのは、これからの人生を有意義にしていこうととても役立つと思います。

＊今回の研修で最も強く思ったことは感謝という心です。研修中は何かを始める前と終わった後に両手を合わせ、また事あるごとに何度も合掌を行いました。右手の掌に相手、左の掌に我を乗せて合わせることで、自分と相手を一致させる表現。そして尊いものへの感謝の礼を示すことで、物事に対し素直に「ありがたい」と思えるようになった気がしました。

神道が神に対し祈るのに対し、仏道は感謝の気持ち

を持つて祈るといふ大塚先生の言葉が印象的に残っています。そういった気持ちで見ると寺内の各地におられた仏像も神様のように拝むのではなく、尊い相手に對して頭を下げればよいのだということに気づけました。

今回の研修でまた人に助けられ、今まで人生が周囲によつて生かされていたことを意識し、ただただ感謝の気持ちをこれからも持ち続けていきたいです。

*成願寺では、いままで特に注意をしてこなかった日本人としての作法、仏教の作法を学ぶことができた。正しい正座や坐禪の仕方や、正しい食事のマナー、仏教での物事の考え方を学んだことは今後の生活でも意識していくことが増えていくと思います。大塚先生からは特に指導をいただき、正座の経験が少く長時間続けて坐することは厳しかったですが、正しい正座の坐り方、また普段からの姿勢の悪さについて意識していこうと考えました。成願寺で学んだことは、今後の社会人としての生活だけでなく家族や友人と過ごすときにも意識し、ときには伝えていきたいと考えます。今回の研修を行なつてくださった皆さんに感謝し、社会人としての一歩とさせていたいただきたいと思います。

お檀家の
中の匠

第一回 紋章上繪師 波戸場承龍氏



お檀家様の中より、伝統的な仕事に携わる方を紹介する（不定期）新連載。第一

回は当山の参拝記念品の一つ、加賀諸江屋「青のり煎餅」（写真）のパッケージをデザインしてくださった「詠処京源」代表で紋章上繪師の波戸場承龍氏です。

紋章上繪師とはもともと着物に手書きで家紋を描き入れる職人。明治時代の初代で祖父の源次氏、二代で父の源氏の技を継いで承龍氏は三代目。

承龍氏は紋章上繪の技を継承しながら、「デザインとしての家紋」をコンセプトにこれまで数多くの斬新な作品を手掛けています。たとえばラインストロークを用いた「クリスタル家紋」。ステンレスプレートに掘りを入れた家紋が前面を飾るチェスト。また、COLEDIO室町の入り口に掲げられている大暖簾の家紋も氏のデザインによるもの。稲荷町の「詠処京源」では作品の展示もされています。（<http://www.kyogen.com>）

春の観音詣りの報告

四月二十九日（水・昭和の日）恒例の春の観音詣り。今年は江戸川区・葛飾区・江東区と下町散策に出かけました。お寺に朝八時集合。観音堂にてご祈禱の後、バスは一路十八年ぶりとなる江戸川区南篠崎の立木観音へ。こちらに祀られるのは江戸時代に代々名主をつとめたというお宅で守る観音様で、樹齢五百年のケヤキの立木に直接彫られたお姿。柔和で愛らしい表情は以前と変わらず私たち一行を迎えてくださいました。

お経の後、観音様の周りをぐるっと巡り、いまでもその地に根を張り見守る様子を間近で拝観させていただきました。お堂の正面には一枚の記念写真が飾られています。それが十八年前の私たちの姿で、久しぶりの顔や、自身の姿を見つけて懐かしむ一行でした。お堂



立木観音



お話を頂戴する一行（萬福寺）



萬福寺の方丈様を囲んで



江戸時代のファーストフード天ぶら屋の屋台（江戸深川資料館）

江門末期天保年間の深川佐賀町を実物大で再現した町並みで、季節の野菜や卵、漬け物等が並ぶ八百屋、猪牙舟（きぶね）を扱う船宿、また長屋での庶民の暮らしぶりをタイムスリップして体験しました。成願寺に午後五時帰着。観音堂にて旅の無事を報告し散会となりました。

脇で営むパン屋さんの焼きたてパンをおみやげにいただと、バスは葛飾区柴又へ。三十分ほどで到着し、まずは柴又七福神の福祿寿が祀られる萬福寺様へ。本堂へ導かれるとご本尊のお釈迦様に参拝し、ご住職の垣内善勝老師にお話を頂戴しました。客殿にて茶菓のおもてなしをいただいでしばし歓談。お昼は寛政年間創業といううなぎ料理の老舗「川甚」で今や高級品となったうなぎを堪能しました。歩いてすぐの帝釈天を各々参拝し、参道の散策や寅さん記念館・山田洋次ミュージアム、和洋折衷の建物と昭和初期の純和風の庭園が見事な山本邸などを見学。下町情緒を楽しみました。バスは最後の目的地江東区の江戸深川資料館へ。

山内短信

◎孟蘭盆先祖まつり（おせがき）のお知らせ

七月十一日（土）朝十時半 受付開始

正 午 開山・歴住諸大和尚報恩供養 続けて

当山坐禅会師家故鈴木格禅先生十七回忌供養
午後一時 説教「先祖の心を仰ぐ」

中野区 萬昌院功運寺住職 佐々昌樹老師
午後二時 先祖まつり法要・檀信徒総供養

◎成願寺前バス停待合所にミニ「金毘羅大権現」

こんぴらだいじんげん
金毘羅大権現は、インドの古い言葉でクンベーラ（kumbhira）といい、元々はガンジス川の鰐を神格化した神様です。仏法の神髄・大般若経を守る十六善神の一人で、香川県金毘羅宮を中心に古くから水運陸運安泰の守護神。江戸名所図会には成願寺東北角の金比羅宮が描かれています。小さいお姿ながら復活、山手通りに輻輳する人をお守りくださるよう願っています。

◎秋の観音詣りのお知らせ

十一月十日（火）からの一泊で、厄よけの観音様として信仰を集める飯高観音萬勝寺の参拝をメインに岐阜県の霊場を巡拝します。宿泊は登録有形文化

財に指定される老舗旅館・下呂温泉「湯之島館」を予定。詳細は次号にて。

竹垣修復工事完了の報告…当山では二十年前より竹で外塀を造作。始め千葉印西から切り出した猛宗竹を寺内の手で並べました。膨大な力仕事手間仕事で素人には過重。十三年前より、箱根植木（株）に任せ、この春三回目の改修。山手通り沿いに千



葉県産真竹を編みました（写真は工事の様子）。風通しと目隠しの塩梅で高さ三〜五メートルの不規則さ。ところで排気ガス多い登り坂沿いで、また朝日に強く炙られ、変色とひび割れに悩みおり、少しでも長く持たせる方便、募集中です。

◎当寺近辺に寄宿し、学校等に通う勤勉な者を受け付けます。朝の行事、作務（有給）・朝飯に参加。七時以後自由。僧俗・性別・国籍不問。二十二歳未満。詳細は寺務所にお問い合わせて下さい。

*ホームページ <http://www.nakanojouganj.jp/>